

覚せい剤乱用者総数把握のための調査研究(6)

(財)社会安全研究財団委託調査研究報告書

平成 16 年 3 月
統計数理研究所
田村義保

はじめに

覚せい剤使用に関する調査を平成 10 年度から継続して行っている。薬物の不法使用(乱用)は個人の健康に悪影響を与えるのみならず、社会的な病巣をも作り出していく。平成 13 年度、14 年度は郵送調査を併せて行った。郵送調査で、覚せい剤のみならずシンナーや大麻等の使用者を知っているか否かの質問を行った。郵送調査との結果比較のために、この両年度に行ったオムニバス調査においては、平成 10 年から 12 年とは調査票の質問文を変更した。質問文を変えたためかどうかは分からないが、14 年度調査においては、覚せい剤乱用者を知っていると答えた者の割合が激減するという結果になってしまった。覚せい剤乱用者を知っていると答えた人が減ったのが質問文変更のためか、実際に覚せい剤使用者が少なくなり、そのために、使用者を知っていると答える者が減ったのかを調べるために、本年度は、平成 10 年度から 12 年度までの質問文を用いた調査を 2 回(8 月、10 月)と平成 13 年度、平成 14 年度の質問文を用いた調査(ただし、平成 13 年度・14 年度はシンナー、大麻、MDMA、コカイン、高精神剤、覚せい剤、ヘロインの 7 種の薬物乱用について聞いたが、本年度はシンナー、大麻、覚せい剤の 3 種に限った。)を 3 回(9 月、11 月、12 月)行った。質問文の違いが影響しているか否かも含め結論についてはまとめて詳述する。

朝日新聞ホームページ版には

財務省は 10 日、昨年 1 年間に税関が摘発した密輸の状況を発表した。覚せい剤や大麻など薬物の密輸では押収量が前年より 2 割多い 1104 キロと、2 年ぶりに 1 トンを超えた。若者の間などで流行し、高校生が学校で生徒に密売した事件が起きた合成麻薬 MDMA の押収量は、前年比で約 2 倍の 36 万 8000 錠と過去最高となり、5 年前と比べて約 20 倍に急増している。

密輸の手口は、船舶などで人が持ち込む「大量単独型」から、国際郵便などを使った「小口多発型」に変わり巧妙になっている。不正薬物全体の摘発(554 件)のうち、国際郵便物の利用が 248 件と最多だった。

覚せい剤の押収量は 327 キロと前年と比べ 2 割減ったが、件数は 4 倍近く増え 76 件と過去最高だった。不法薬物全体では、これまで大量の密輸があまりなかったカナダやマレーシアなどからのルートで摘発が相次ぐなど、密輸元も多様化している。(02/10 22:13)

という記事が掲載されている。また、2 月 14 日の毎日新聞朝刊や朝日新聞、読売新聞のホームページ版には

覚せい剤 1・25 キロを中国から日本に持ち出そうとして麻薬密輸罪で起訴された 60 歳代の日本人男性に対し執行猶予の付かない死刑判決を言い渡された。

という記事が掲載されているとともに、安易に「運び屋」となる者がいることが紹介されている。さらに、2 月 7 日の東京新聞ホームページ版には

警視庁は六日、麻薬取締法違反(所持)容疑で逮捕した東京都内の高校三年男子生徒(18)ら少年三人を誤認逮捕だったとして釈放したことを明らかにした。持っていた薬物は規制対象外の合法ドラッグで、本鑑定前の予備検査でコカインと誤認したのが原因だった。

という記事が掲載されている。どれを見ても、薬物使用(乱用)のすそ野が広がっていることと密接に関係している。覚せい剤の押収量は減少しているかもしれないが、薬物に対する感覚が麻痺しているとしか思えないような状況になっているように思える。このことは、学校で MDMA を売る高校生や、MDMA を購入するお金欲しさに強盗を行う中学生がいることから伺い知ることができる。

本年度の調査では MDMA について質問しなかったのは誠に残念である。また、青少年の薬物利用についても、調査を行っていく必要がある。本調査を契機にして、大規模な調査が警察庁、厚生労働省、文部科学省、内閣府等が合同で実施するような体制がとられるようになれば幸いである。また、調査結果が今後の薬物対策の有効な資料となれば幸いである。

平成 16 年 3 月
統計数理研究所
田村義保

目次

第1章 調査の概要	3
第2章 調査結果	19
第3章 まとめ	68

第 1 章 調査の概要

第 1 節 調査の目的

薬物の不法使用（乱用）、特に、覚せい剤乱用者数を推定することが調査の目的である。また、過去の調査に用いた 2 種類の調査票を用いて、調査票の違いが調査結果に影響するか否かについても調べる。

第 2 節 調査の方法

- ・ 調査対象 全国の 20 歳以上の男女 2,000 名
- ・ 調査地点 全国 160 地点
- ・ 抽出方法 層化 2 段無作為抽出法
- ・ 調査方法 調査員による個別面接調査

標本抽出の元となる層化表を示す。

表 1 2002 年 3 月 31 日現在の 20 歳以上人口(千人)

	14 大都市	市部	郡部	計
北海道	1474	2060	1041	4575
東北	782	4209	2796	7787
関東	1530	16773	3768	22071
京浜	10564	0	0	10564
甲信越	0	2802	1625	4427
北陸	0	1714	781	2495
東海	1703	7396	2551	11649
近畿	1136	6242	2152	9530
阪神	3243	3715	0	6958
中国	879	3704	1581	6165
四国	0	2171	1188	3359
九州	1845	6034	3720	11599
計	23156	56820	21202	101179

人口に比例して全国から 160 地点を抽出し、各調査地点から標本を抽出している。表 2-1 と表 2-2 に各ブロックに属する市町村の都道府県名と 14 大都市名を示している。14 年度まではさいたま市を含まない 13 大都市であった。また、合併により郡部から市部に移った人口もあるが、平成 10 年から平成 15 年の間で大きな変化はないものと思われる。表 3-1 と表 3-2 に平成 15 年 6 月 1 日時点での 20 歳以上の日本人の人口及び構成比率を男女別に示している。

本年度実施した 5 回の調査月日と回収標本数、回収率を表 4 に示している。5 回の調査の回収率に大差はない。また、平成 10 年から 14 年に実施した調査の回収率ともほぼ同程度であり、調査環境は変化していないものと見なすことができる。

表 5-1 にはブロック別回答者数、表 5-2 には都市規模別回答者数、表 5-3 には年齢別回答者数、表 5-4 には職業別回答者数を示している。表 6-1 には表 3-1 から作成した 10 歳きざみの日本人の人口構成比を表 6-2 には本年 5 回の調査における回答者の年齢構成を示している。

表 2-1 層化表(ブロック詳細)

ブロック	都道府県市名
北海道	北海道
東北	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、京浜ブロック以外の東京都・神奈川県
京浜	東京都区、横浜市、川崎市
甲信越	新潟県、山梨県、長野県
北陸	富山県、石川県、福井県
東海	岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
近畿	滋賀県、京都府、阪神ブロック以外の大阪府・兵庫県、奈良県、和歌山県
阪神	大阪市、堺市、豊中市、池田市、吹田市、守口市、八尾市、寝屋川市、東大阪市、神戸市、尼崎市、明石市、西宮市、芦屋市、伊丹市、宝塚市、川西市
中国	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県

表 2-2 層化表(都市規模詳細)

都市規模	市名
14 大都市	札幌市、仙台市、さいたま市、千葉市、東京都区、横浜市、川崎市、名古屋市、京都市、大阪市、神戸市、広島市、北九州市、福岡市
市部	14 大都市以外の市
郡部	

表 3-1 2003年6月1日現在の日本人
男女別人口(万人)

年齢	合計	男	女
20～24	773	397	376
25～29	903	460	443
30～34	944	478	466
35～39	821	415	407
40～44	772	389	383
45～49	789	396	393
50～54	1012	504	508
55～59	899	443	456
60～64	813	394	418
65～69	740	351	389
70～74	633	288	344
75以上	1036	377	659
合計	10135	4892	5242

表 3-2 2003年6月1日現在の日本人
男女別人口比率(%)

年齢	合計	男	女
20～24	7.63	8.12	7.17
25～29	8.91	9.40	8.45
30～34	9.31	9.77	8.89
35～39	8.10	8.48	7.76
40～44	7.62	7.95	7.31
45～49	7.78	8.09	7.50
50～54	9.99	10.30	9.69
55～59	8.87	9.06	8.70
60～64	8.02	8.05	7.97
65～69	7.30	7.17	7.42
70～74	6.25	5.89	6.56
75以上	10.22	7.71	12.57
合計	100.00	99.99	99.99

表 4 調査月日と回収率

	調査票	調査月日(2003年)	回収数	回収率(%)
第1回	A	8月8日～11日	1372	68.6
第2回	B	9月12日～15日	1385	69.3
第3回	A	10月10日～13日	1417	70.9
第4回	B	11月11日～16日	1414	70.7
第5回	B	12月11日～14日	1355	67.8

表 5-1 ブロック別回答者数

調査回	性別	総数	北海道	東北	関東	京浜	甲信越	北陸	東海	近畿	阪神	中国	四国	九州
第1回	男性	632	31	55	122	64	34	17	77	58	37	40	21	76
	女性	740	38	56	162	71	26	18	85	72	56	43	26	87
	総数	1372	69	111	284	135	60	35	162	130	93	83	47	163
第2回	男性	616	36	59	122	62	23	16	72	55	38	34	26	73
	女性	769	30	54	156	69	41	21	96	82	59	53	20	88
	総数	1385	66	113	278	131	64	37	168	137	97	87	46	161
第3回	男性	662	28	46	147	61	31	15	76	72	52	39	23	72
	女性	755	37	64	145	84	31	18	95	65	51	49	26	90
	総数	1417	65	110	292	145	62	33	171	137	103	88	49	162
第4回	男性	663	28	56	140	60	32	15	85	68	38	41	21	79
	女性	751	43	54	154	76	29	19	93	68	56	47	28	84
	総数	1414	71	110	294	136	61	34	178	136	94	88	49	163
第5回	男性	609	21	51	122	72	28	12	74	67	33	38	22	69
	女性	746	44	53	146	85	38	21	88	68	54	49	22	78
	総数	1355	65	104	268	157	66	33	162	135	87	87	44	147

表 5-2 都市規模別回答者数

調査回	性別	総数	14大都市	その他の市	町・村
第1回	男性	632	153	326	153
	女性	740	158	438	144
	総数	1372	311	764	297
第2回	男性	616	144	330	142
	女性	769	168	435	166
	総数	1385	312	765	308
第3回	男性	662	152	364	146
	女性	755	177	414	164
	総数	1417	329	778	310
第4回	男性	663	148	367	148
	女性	751	169	422	160
	総数	1414	317	789	308
第5回	男性	609	152	323	134
	女性	746	173	413	160
	総数	1355	325	736	294

表 5-3 年齢別回答者数

調査回	性別	総数	20-29	30-39	40-49	50-59	60-
第 1 回	男性	632	68	120	96	137	211
	女性	740	72	143	139	173	213
	総数	1372	140	263	235	310	424
第 2 回	男性	616	62	118	105	128	203
	女性	769	87	140	138	160	244
	総数	1385	149	258	243	288	447
第 3 回	男性	662	86	127	104	146	199
	女性	755	92	152	139	155	217
	総数	1417	178	279	243	301	416
第 4 回	男性	663	89	124	104	131	215
	女性	751	77	159	153	165	197
	総数	1414	166	283	257	296	412
第 5 回	男性	609	84	109	109	112	195
	女性	746	91	138	148	170	199
	総数	1355	175	247	257	282	394

表 5-4 職業別回答者数

調査回	性別	総数	農林漁業	商工サービス業	事務職	労務職	管理職 自由業	無職の 主婦	学生	その他 無職
第 1 回	男性	632	26	100	128	187	31	0	6	154
	女性	740	15	63	118	138	4	333	2	67
	総数	1372	41	163	246	325	35	333	8	221
第 2 回	男性	616	26	88	157	156	33	0	7	149
	女性	769	21	72	114	137	6	335	8	76
	総数	1385	47	160	271	293	39	335	15	225
第 3 回	男性	662	32	94	171	177	44	0	13	131
	女性	755	17	70	130	127	7	328	14	62
	総数	1417	49	164	301	304	51	328	27	193
第 4 回	男性	663	21	115	157	174	31	0	6	159
	女性	751	18	62	125	141	12	331	7	55
	総数	1414	39	177	282	315	43	331	13	214
第 5 回	男性	609	17	95	167	127	23	0	26	154
	女性	746	18	67	114	149	6	351	8	33
	総数	1355	35	162	281	276	29	351	34	187

表 6-1 20 歳以上の日本人の人口構成(%)

	20-29	30-39	40-49	50-59	60-	合計
男	17.52	18.25	16.04	19.36	28.82	99.99
女	15.62	16.65	14.81	18.39	34.52	99.99
合計	16.54	17.41	15.40	18.86	31.79	100.00

表 6-2 回答者の年齢構成(%)

調査回	性別	20-29	30-39	40-49	50-59	60-	合計
第 1 回	男性	10.76	18.99	15.19	21.68	33.39	100.01
	女性	9.73	19.32	18.78	23.38	28.78	99.99
	合計	10.20	19.17	17.13	22.59	30.90	99.99
第 2 回	男性	10.06	19.16	17.05	20.78	32.95	100.00
	女性	11.31	18.21	17.95	20.81	31.73	100.01
	合計	10.76	18.63	17.55	20.79	32.27	100.00
第 3 回	男性	12.99	19.18	15.71	22.05	30.06	99.99
	女性	12.19	20.13	18.41	20.53	28.74	100.00
	合計	12.56	19.69	17.15	21.24	29.36	100.00
第 4 回	男性	13.42	18.70	15.69	19.76	32.43	100.00
	女性	10.25	21.17	20.37	21.97	26.23	99.99
	合計	11.74	20.01	18.18	20.93	29.14	100.00
第 5 回	男性	13.79	17.90	17.90	18.39	32.02	100.00
	女性	12.20	18.50	19.84	22.79	26.68	100.01
	合計	12.92	18.23	18.97	20.81	29.08	100.01

図 1-1、1-2、1-3 には年齢構成の帯グラフを示している。20 歳代の回答者の割合が実際の人口構成比と比べて少なくなっていることが分かるが、平成 14 年までと同様に、年齢により回収率が異なることを考慮した補正は行わない。

その後に調査票 A 及び回答票 A(8 月、10 月実施)並びに調査票 B 及び回答票 B(9 月、11 月、12 月実施)を示す。回答票 A は、実際は A4 横で 1 枚目に回答票 1 と 2、2 枚目に回答票 3 と 4 が横に並んでいる。回答票 B も、実際は A4 横で 1 枚目に回答票 1 と 2 が横に並んでいる。

图1-1 年齢別回答者比率と人口構成比（男）

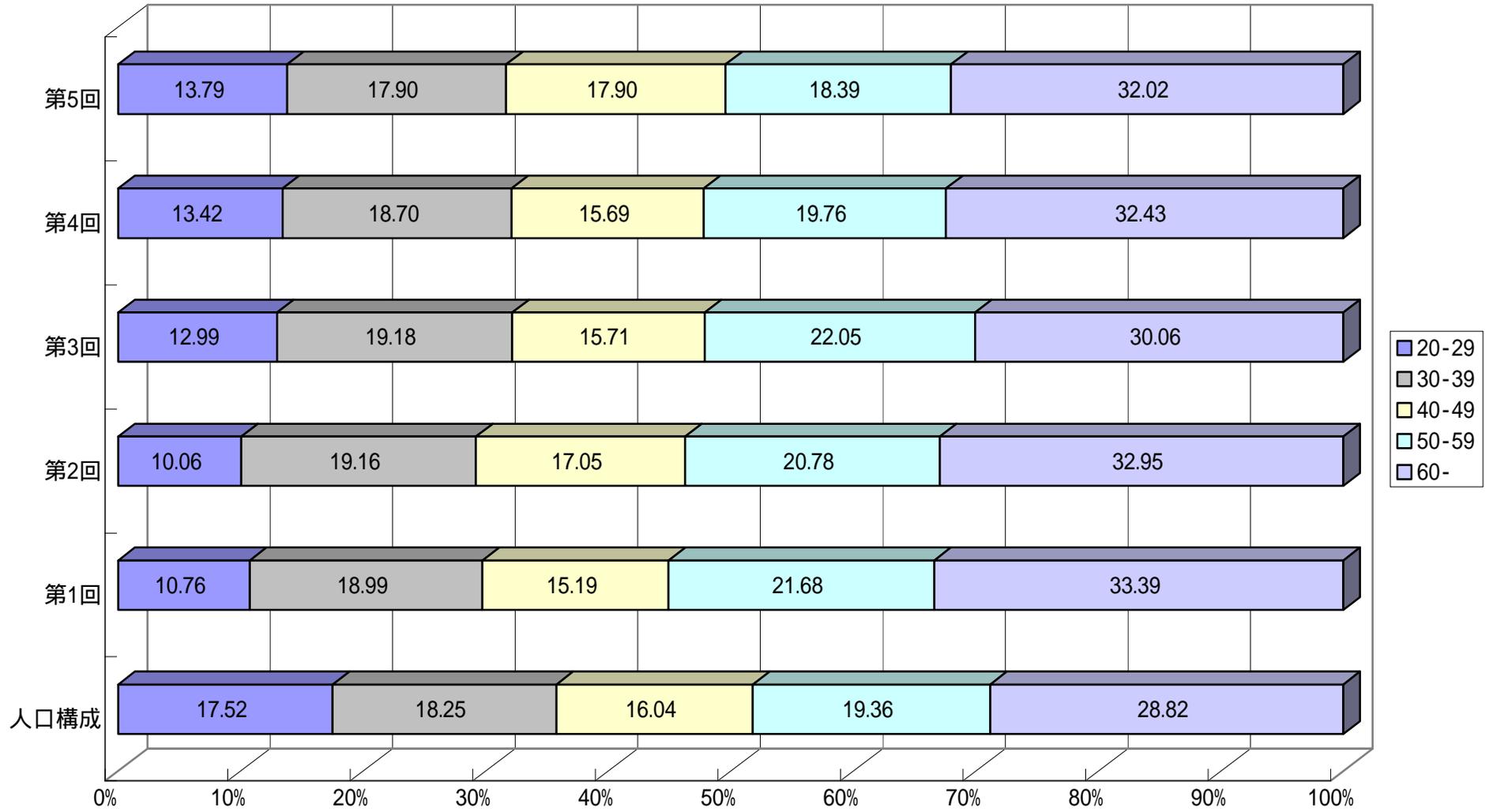


图1-2 年齢別回答者比率と人口構成比（女）

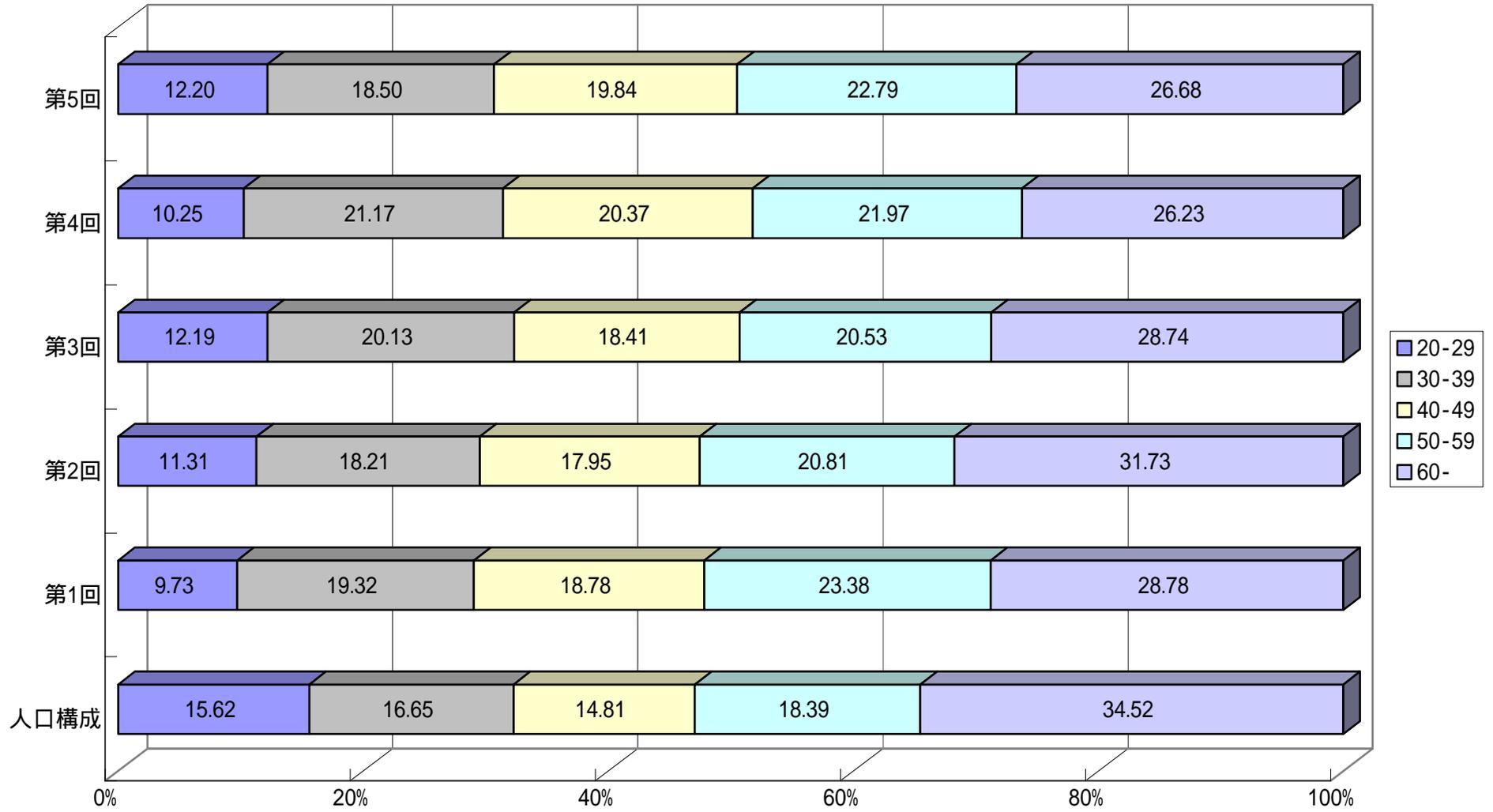
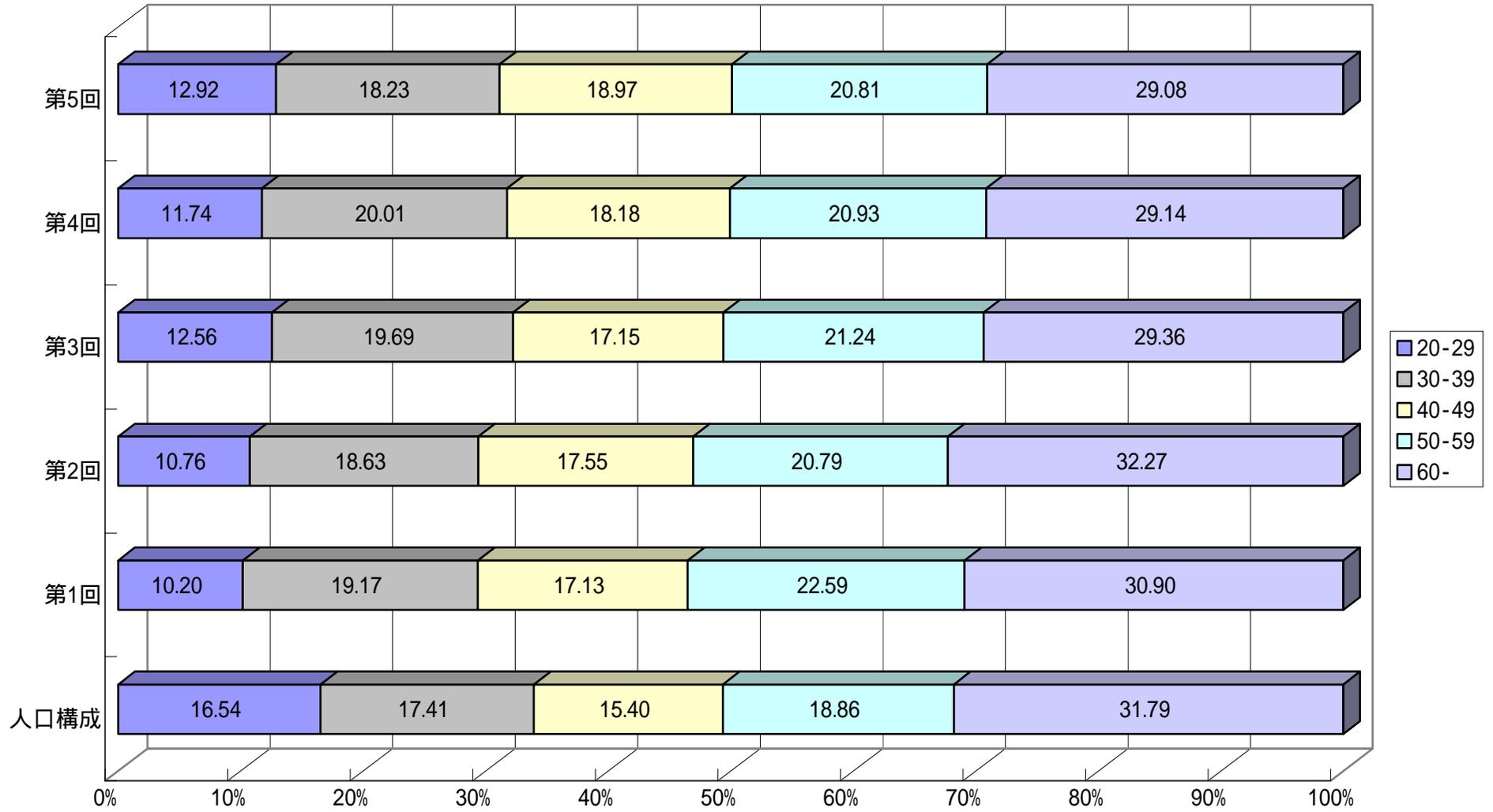


図1-3 年齢別回答者比率と人口構成比（男女）



次に、覚せい剤などの薬物についておうかがいします。

Q 1 . [回答票 1] あなたは、覚せい剤を使用することについてどのように考えていますか。あなたの考えにあてはまるものをこの中から 1 つだけ選んでください。

- 1 (ア) どのような理由であれ、絶対に使うべきでないし、許されることではない
- 2 (イ) 心や体への害がないなら、1 回くらい使ってもかまわない
- 3 (ウ) 他人に迷惑をかけていないので、乱用するかどうかは個人の自由である
- 4 その他 ()
- 5 わからない

Q 2 . [回答票 2] あなたは、覚せい剤を使用する機会がおとずれた場合、どのようにふるまうと考えますか。この中から、あなたの考えにあてはまるものを 1 つだけ選んでください。

- 1 (ア) 絶対に使用しない
- 2 (イ) 心や体への害がなければ、1 回くらい使用してみたい
- 3 (ウ) 誰にも迷惑をかけるわけでもないので、常習的に使用してみたい
- 4 答えたくない
- 5 わからない

Q 3 . [回答票 3] あなたは、覚せい剤などの薬物を使用することや購入することを誘われたり、勧められたことがありますか。この中から、あなたの体験にあてはまるものを 1 つだけ選んでください。

1	2	3	4	5
(ア)	(イ)	(ウ)		
誘われたり、勧められたことはない	購入を勧められたことがある	使用を誘われたことがある	答えたくない	わからない

Q 4 . あなたのまわりで覚せい剤を使用している人を知っていますか。

1	2	3	4	5
使用している人を知っている	具体例は知らないが少しはいると思う	いない	答えたくない	わからない
↓	→ (Q 5 へ)			

S Q . あなたは、何人くらい使用している人を知っていますか。

使用した人の使用時期から、(1)ここ 1 年未満、(2)1 年以上に分けて教えてください。

(1) 1 年未満

(2) 1 年以上

人

人

- 1 答えたくない
- 2 わからない

(回答票 A 1/3)

(回 答 票 1)

(ア) どのような理由であれ、絶対に使うべきでないし、許されることではない

(イ) 心や体への害がないなら、1回くらい使ってもかまわない

(ウ) 他人に迷惑をかけていないので、乱用するかどうかは個人の自由である

(回 答 票 2)

(ア) 絶対に使用しない

(イ) 心や体への害がなければ、1回くらい使用してみたい

(ウ) 誰にも迷惑をかけるわけでもないので、
常習的に使用してみたい

(回答票 A 2/3)

(回 答 票 3)

(ア)誘われたり、勧められたことはない

(イ)購入を勧められたことがある

(ウ)使用を誘われたことがある

(回 答 票 4)

(ア)使用している人を知っている

(イ)具体例は知らないが、少しはいると思う

(ウ)いない

(回答票 A 3/3)

(回 答 票 5)

(1) 1 年未滿

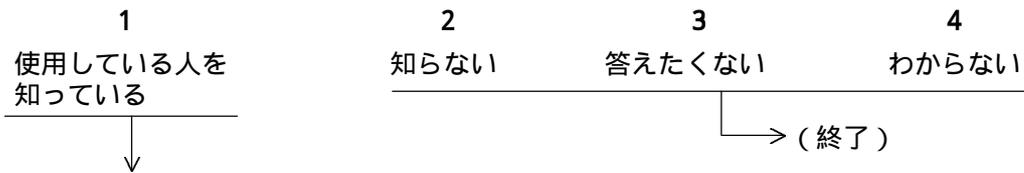
(2) 1 年以上前

次に、覚せい剤などの薬物についておうかがいします。

Q 1 . [回答票1] あなたは、覚せい剤を使用することについてどのように考えますか。この中から、あなたの考えにあてはまるものを1つだけ選んでください。

- 1 (ア) どのような理由であれ、絶対に乱用すべきでないし、許されることではない
- 2 (イ) 心や体への害がないなら、1回くらい使ってもかまわない
- 3 (ウ) 他人に迷惑をかけていないので、乱用するかどうかは個人の自由である
- 4 その他 ()
- 5 わからない

Q 2 . あなたは、あなたの周囲でシンナーなどの有機溶剤、大麻、覚せい剤の薬物を乱用している人を知っていますか。



S Q 1 . あなたは、何人くらい使用している人を知っていますか。

人

- 1 答えたくない
 - 2 わからない
- } → (終了)

S Q 2 . [回答票2] では、使用薬物、使用時期ごとに薬物使用者の人数をお答えください。

(1)シンナーなどの有機溶剤について、(ア)1年未満では何人ですか。(イ)1年以上前では何人ですか。【調査員注：(2)~(3)も同様に聞く】

	(ア) 1年未満	(イ) 1年以上前
(1)シンナーなどの有機溶剤	<input style="width: 50px; height: 25px;" type="text"/> 人.....	<input style="width: 50px; height: 25px;" type="text"/> 人
(2)大 麻	<input style="width: 50px; height: 25px;" type="text"/> 人.....	<input style="width: 50px; height: 25px;" type="text"/> 人
(3)覚せい剤	<input style="width: 50px; height: 25px;" type="text"/> 人.....	<input style="width: 50px; height: 25px;" type="text"/> 人

(回答票 B 1/1)

(回 答 票 1)

(ア) どのような理由であれ、絶対に乱用すべきでないし、許されることではない

(イ) 心や体への害がないなら、1回くらい使ってもかまわない

(ウ) 他人に迷惑をかけていないので、乱用するかどうかは個人の自由である

(回 答 票 2)

(1) シンナーなどの有機溶剤

(2) 大 麻

(3) 覚せい剤

.....

(ア) 1年未満

(イ) 1年以上前